京城新報

●陰暦 十一月十六日
發行所 京城新報社 電話六六三

一年雜記
事變後の宮廷(上)
劍星樓山人

意想より安かりしは新協約なり、想ふたより早かりしは太皇帝の讓位なり、意外に長く意外に困つたものは暴徒なり、へーグ密使事變の幕中に於て宮廷の大奥に於て皇太子妃冊立の内評定席に於て誰れの内より妃を迎ふるべきか疑問は申す迄も無く太皇帝陛下の御唇を破りて解決された、曰く李完用の娘は最も良き配偶なり、最も良き太子妃なりと。

宮城の隅から隅まで波瀾の内に捲き込まれ輔民、盡く暗黒の間に動揺せる頃、早くも慶運宮の大奥に於ては政府操縦の大計を劃策したる太皇帝陛下の御聰明も仲々鋭敏なりと申すべし。

李完用氏の兄は宮内大臣となり、其子は侍從副卿となり、宮廷政治は忽ちにして李兄弟の掌中に入つた、久しく煩悶の間にあつた英親王の冊封成禮も無く皇位繼承の御位に定められ、生母の方嚴妃の憂慣も造作も無くして解かれ、玆に慶運宮の御一族中に於て今は只だ太皇帝陛下の一指一令の下に於て重ねて御政事開きとなつた。

當時宮廷の李兄弟に對する待遇は實に極まれるものであつた、李氏の門前に於ては位爵賞金天より雨降る如くに猛注されしに拘らず、彼は幾十年間に於て宮廷政治の秘訣を了解して居る、斯る大福祿の後には過大なる要求が來ることを豫期して居る、故に辭し得るものは悉く辭したが、自ら好んで宮廷を棄てゝ東海に入る程の勇氣は無かつたのである。

果然來れる第一の要求は非遷宮であつた、退隱せるも宮廷は分離せざることを要求したのである、時代の要求と太皇帝の要求は正反對である、去り乍ら時代は平氣で分離せしめた、恰かも暴徒が江原より畿南に移り、第二期の活動を始めた頃には昌德宮の御遷幸が行はれた時と機會を同ふして居るのは我儕の眼中に反影した。

遷宮と皇太子御留學は殆んど同時に決定されたが、太皇帝陛下の御心中に於ては深く李兄弟の無能を慨慨せられた、彼は宮廷の全望を宮中府中に於て一族で繋ぎ乍ら、看す看す時代に默從するとは賴み甲斐無き男である、閔族中に於ては一種の不平を企たものもあつた、風說大に起り、憂慮漸く高く、各地に於ける暴徒は恰かも李内閣に對して肉薄的暴威を示して居る、是時に際して李兄弟の進退は内外の要求に挾まれ、辛くも助かりしは我 東宮殿下御來韓によりて此危機を和らげ宮廷も遂に沈默されて遷宮一事を決行されたは李内閣に取りては意外の恩惠であつた。

北老爺嶺(山脈)大森林及雪中縱斷記(八)
懸衣仙

▲人蔘小盜兒

十二月六日午前十一時四十五分牛濟溝口子を出發板石河に沿ひ或は其兩岸を縫ひ或は其氷上を歩して、溯ること凡そ三十清里にして大牛溝に着、時に午後四時三十分、板石河子、小白色兒は其中間の小地名なり此日前夜來より曇り勝にて時々雪ふる此附近は河に沿うて多少の耕地が有つて河邊には所々に虎の落牢が設けてある、樹木は幾分か疎で多くは濶葉樹で有るが、大牛溝に近づくに從つて針葉樹を増して來る、次の日には八里ばかりの間途中に泊るべき家もないといふので此日は僅に三里ばかりしか歩かず充分に英氣を養はうといふ所からゐのしゝの肉と蘿蔔と麻枯の汁に饂飩腹を肥やして、ぐつすりと寢込み、明くる日は匆々から猪の肉を入れて握り飯を拵へさて朝食も済んだので、さあ出發と云ふ間際になつて、宿の主人が作り人蔘の一筋がなくなつたと言出し、どうか我等の一行が引伸れてゐる爬犂の苦力頭を取調べて呉れよと云ふ、そこで又一騒ぎ、苦力を殘らず調べて見ても少しも分らぬ、今度は一行の服裝から荷物一切を、切角爬犂に載せて今や曳出さうとする奴を、一々解いて、主人を立合に改めさせる、勿論日本人たる者が苟にも苦力にも等しき支那人の物なぞを偸むなんぞいふ、手癖の惡い事をする氣遣はない、こんな小面當な事を、手數と時間を掛けてまで誰人が仕たいとがあるものか、夫をするには此方も少々譯あつての事だ、さあ是迄調べても分らぬとなつたから此度は此方で承知しない、苟にも窃盜の嫌疑を一行に掛けて、只さへ急がねばならぬ今日の道程を、朝つ端から少なからぬ時間と手數を費さして、夫で済むかどいう大した劍幕、今度は此方から反對に、主人の家の雇人を一々取調べるとになつて、種々詮儀を仕て見た結果、一個の年若い苦力が前夜宵更けに三丁もある一農家に用足しに行つて少時して歸つて來たとが有ると云ふとを耳にしたから、さあ堪らない、その若者を引立てゝ、態々その一農家といふのに出張り家宅搜索を行つた上に老農夫父子をいやが上にも拷問し、はては愈この若者が怪しいと云ふので、この寒中に水責め、氷責め、雪責め、拳固の雨が降る、摔つ、毆く、蹴る、散々責め上げた揚句の果は、鋭に丸込めて前後左右を警護して、まだ朝飯も飯はすぶる〳〵戰ね上がつてゐる奴を、無理無体に引立てゝ不相變雪と氷の塹を排けてゆく、ゆく〳〵も種々詮議を仕て見るもの〵この律義者が人蔘小盜兒だとは何うしても見られぬ、見れば朝食を食はず水責め、氷責、雪責めに逢うて面の滴は氷り襟頸から肩にかけてぐつしより濕めてゐて、ぶる〳〵戰ねてゐる、斯うなつては有繫の一行も幾らか可哀想になるにつけ、證據は固より不分明と云ふ所から、堅く將來を戒めて、夫れでもいおらしいではないか、夫程迄に辛め抜いた奴に握飯三つを與へて、さあ歸してやるとばかりに、縛を解いて一里も來た所から突放してやるとは、人蔘小盜兒の拷問も一段落濟むと今度は虎の狸窄此日位ゐ愉快な且出來事の多い日はなかつた

最近の京城商況(二)
(京城日本人商業會議所調)

△日本酒● 前月より樽に付き何れも一圓以上の高價を示せしにも不拘氣候の寒さに連れ賣行好況にして中にも白鶴、澤龜の如きは一般嗜好者多く需用第一位を占め居れり

△大、小麥● 地方よりの出廻り少く望人多き爲め時として破格に相場を現す事あり

△大豆● 地方暴徒あるに不拘日増し多數の出廻りありて相場時々變動を見る一般商況は好景氣を占め居れり

△味噌● 氣候の寒さに連れ日増し好景を呈し各地軍隊及地方の使用口多くして前月よりは賣行良好にして相場に於ては大差なし

△麥酒● 時節柄夏期の如き賣行はなきも盛月に入らば歳暮進物用として相當の好景氣を來たすならん

△洋酒● 麥酒に反し目下賣行好況を呈せり

△牛皮、牛骨● 相當に出廻りありて相場に於ては前月より幾分下落の氣配なり

△石油● 時候柄需用多く從て韓人側に於ても相當の取引ありて好況を呈せり値段に於ては前月と同じ

△木材● 先月來より内地相場引續き暴騰の爲め從て當地各商店共手持品薄く賣控の姿にて有りしが各使用先は結氷期を目前に控へし爲め直段の高きに係はらず需用品買求の爲め益々購買の景況を呈せり

▲板硝子● 季節に向ひ需用者多數の爲め各店共持合せ薄く隨て相場も活氣を呈せり

▲罐詰類● 季節柄入荷少く隨て需用も一般減じたるも筍の如きは產地品拂底の爲め益々強氣を呈せり

△金物類● 一般に前月よりは賣行減したるも鐵板の如きは非常なる賣行にして他店は凡て品切の摸樣なるも當店にては幸に持合せ充分なるより目下好況を呈し居れり

△唐綿● 季節柄益々賣行あるも銀塊相場の恢復せざる爲め相場格別狂ひなく依然保合の姿なり

▲製綿● 時節柄寒さの募るに從ひ目下非常の賣行を見るに至りしも原綿相場の變動なき爲め從て製綿とても變りなく只小袖綿工賃の直上げに連れ多少の高直となりし迄他は依然不變の商況にあり

十一月中京城物價表
(京城日本人商業會議所調査)

品	名	單位	十一月	十月
白米	上	石	一六、九〇〇	一七、三〇〇
同	中	同	一六、三〇〇	一六、八〇〇
同	下	同	一五、七〇〇	一六、〇〇〇
玄米	上	同	一〇、七〇〇	一一、五〇〇
同	中	同	一〇、三〇〇	一一、三〇〇
同	下	同	九、八〇〇	一一、〇〇〇
小豆	上	同	八、八〇〇	九、一〇〇
同	並	同	八、五〇〇	八、九〇〇
大豆	上	同	七、〇〇〇	八、二〇〇
同	並	同	六、八〇〇	七、九〇〇
小麥	上	同	七、八〇〇	六、六〇〇
同	並	同	七、二〇〇	五、九〇〇
大麥	上	同	三、八〇〇	四、二〇〇
同	並	同	三、五〇〇	三、八〇〇
洋金巾	和軍人	反	七、一二五	七、三三〇
同	和軍八	同	六、一〇〇	六、三三〇
同	銅臺印	同	六、三五〇	六、三三五
和金巾	三印	細	一三三、二〇〇	一三三、二〇〇
同	三エ一印	同	一三九、〇〇〇	一三九、〇〇〇
麻布	越中產上	匹	三、二八〇	三、二八〇
同	同下	同	二、二五〇	二、二五〇
紡績糸	△セ十六 手廿玉入	梱	六五、〇〇〇	六六、〇八〇
同	△ビ十六 手廿玉入	同	六四、五〇〇	六四、八五〇
日本酒	菊正宗 三九入	樽	一九、五〇〇	一九、五〇〇
同	櫻正宗 三九入	同	一九、五〇〇	一九、五〇〇
同	白鶴 四五入	同	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇
同	澤龜 四五入	同	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇
同	櫻魂 四五入	同	一八、五〇〇	一八、五〇〇
同	東洋 四五入	同	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇
同	金平 同	同	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇
醬油	一等龍印 大樽三五入	同	八、八〇〇	八、八〇〇
同	二等同	同	七、六〇〇	七、六〇〇
同	三等同	同	六、五〇〇	六、五〇〇
同	特等小同	同	三、三九〇	三、三五〇
同	一等同	同	二、五〇〇	二、五〇〇
同	二等同	同	二、二〇〇	二、二〇〇
同	三等同	同	一、九〇〇	一、九〇〇
同	龜甲萬印 九斛入	同	四、二〇〇	四、二〇〇
白味噌	正味廿貫入	樽	六、六〇〇	七、〇〇〇
赤味噌	同十八貫入	同	五、八〇〇	六、三〇〇
砂糖	四温	擔	九、一五〇	九、二〇〇
同	同	同	九、〇〇〇	八、九〇〇
同	同	同	八、二九〇	八、四〇〇
麥粉	旗印	袋	二、五五〇	二、四五〇
同	大日本	同	二、五五〇	二、四〇〇
罐詰	牛肉四打入	箱	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇
同	福神漬同	同	七、二〇〇	七、二〇〇
同	パイナップ二磅半入		六、四〇〇	六、二〇〇
同	鮭四打入	同	九、八〇〇	一〇、〇〇〇
同	筍同	同	五、八〇〇	五、五〇〇
同	鶏同	同	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇
同	松同	同	九、五〇〇	九、五〇〇
同	鰹同	同	一〇、〇〇〇	八、〇〇〇
同	鰮同	同	九、〇〇〇	八、九〇〇
麥酒	札幌四打入	箱	九、六九九	九、六五〇
同	旭同	同	九、八五〇	九、六五〇
同	ピース同	同	一一、〇〇〇	一〇、八〇〇
	平の水	同	四、二〇〇	四、三〇〇
	十年ウヰスキー	同	二五、〇〇〇	二四、五〇〇

戰線の家庭
(臺灣隘勇線の事)

◉隘勇● は臺灣人中相當の資格ある者より選拔採用し、例へば吾國の消防組ともいふべき一種名譽の職としてある。此隘勇並に隘勇線防禦の監督は警察事務に屬して居て即ち要所々々に巡査が駐在して、其區域内の隘勇を監督し、又相當の地點に警部が駐在して其上の監督をして居る。

◉前哨● が長くなつたが、茲に御話せんとするは其巡査の家庭である。無論其駐在所は隘勇線の上にあつて、少くとも左右の隘勇詰所が一目して見ゆる樣な地位に建てゝある。大概山の頂上か中腹かで、見渡す限り鬱蒼たる森林ばかり、逢ふものは部下の隘勇か隣區に於ける同僚の巡査である。固より熱帶地で、四時珍らしき花は咲き、名も知れぬ鳥が幾面白く謠つては居るが、從り間違へば自分の首が無くなるのである。

◉獨身者● も中にはあるが、概して家族持を歡迎する風になつて居るので、家族持が多い、子供はあつても學校へ通はせることも出來ず又萬一の場合を恐れて市街地の知人に預けるか内地に殘してゐる、其れで巡査は其妻君と二人きり、眞に形影相吊しつ〵斯かる土地と境遇との間に其職務を守つて居るのである。

◉此程の臺北特電● にも見られた通り、生蕃の奴等は何等かの動機で、時々大擧して此隘勇線を襲うて來るので、現に其電報には此埔支廳長以下巡查隘勇六十名 虐殺馘首せられたとある。誠に是れ一の戰線であつて、殆ど生命は無いものと覺悟してかゝらねば、此役目は勤められぬ。

◉朝起きて見て● 無事であれば、夫妻相顧みて生命が一日延びた事を喜び、御眞影の前に跪いで御禮を述べ、而して妻君がバケツを持て、遙かに下を流るゝ溪川に水を汲みに下りて行く、御亭主は鐵砲に丸を籠めて後から護衛して行くのである。

◉後藤民政長官● が曾て一勇線を巡回せられ罐詰など遣つて其勞を犒らはれた事があつた、巡査は斯かる場所へ態々長官がお出になつて、實況を御覽になり、親しくお言葉を賜はる上は死すと雖此名譽の職を離れぬと言つて夫妻相擁して泣いた、流石に長官も涙を流されたとの事である。吾々平和の地に平和の業を營んで居るものは特に斯かる家庭に對して同情を寄せねばならぬ

文苑
第五句　むらさき

盗人の妻病めりとや年の暮
妻去りて夢さわがしき霜夜哉
霜の夜や灯影に白き人の息
欄干の霜に字を書く丁稚かな
夫病みて妻のもの賣る霜夜哉

小說 紘のみだれ (三十二)
永井櫻圃

女義太界の花として、日の出の人氣を占めつゝある清之助は、頭痛がするとて先へ歸つたゆゑ、師匠の清糸は其後の容体を心配して、若や太くでも惡くなられて、一晩でも席を休まれやうものなら、折角毎夜木戸留の盛況も、忽ち人氣が落ちて了うのみならず、收入の上にも多大の打擊を蒙むるので翌朝は朝飯を了ると宅を出て、途中で菓子折一箱買求め、明舟町に清之助の病氣を見舞べく訪れた、清之助は然ほど太くはなけれど、頭痛膏を額に貼つた儘床の中に居たが、勇五郎は道具市のある日とて、既に出掛けた他に家内とて無ければ、師匠の來るより早く、床を離れて片隅に寄り絣の書生羽織を打被り

『さあどうぞお上り下さいま間の市日だもんですから。斯麽にしみッたれしたので、』

と云ひつゝ長火鉢の傍に來て、火を搔起し、二ッ三ッ炭を加へ

『お寒いのに能くお入來下さいました、わざうぞお敷り下さいまし』

と此方で堪忍して貰ひます

と、座蒲團を長火鉢の前に、其間にコートを脫ぎ、肩掛をとりながら

『病氣は奈何したか知ら、昨夜は大變だと思つて、それで出懸けたのさ。何うだね少しは快いの。』

と云ひつゝ長火鉢の前に坐つて、其顏色を注と眺める。

『はあ、歸つてから藥も服んだり、氷で冷しても見たり爲ましたので、今朝は余程快くなりましたの。』

『でもまだ顏色が惡いのね。實は昨夕歸つて來る時に席主が彼々逢つて來て、清之助さんが病氣だとか聞きましたが、この人氣の出た盛に、彼の人に一晩でも休まれやうもんなら、それこそ取返しが付かなくなります、奈何したもんでせう、明日の興行でには治るでせうかつて、大層心配して居ねるから、病氣の事だから確に治ると請合は能ないけれど、大抵なら押ても出るやうに私から頼むと云つて別れて歸つたが、何うだらうね、今晩出られやうか。』

と、心配相な顏をする。

『今朝は余ほど快くなりましたから、此分で快くなりさへすりや、少し位な事は押て

（第三種郵便物認可）　明治四十年十二月二十日　京城新報　（金曜日）　第卅五號

京城論壇

帝國主義の直行

我帝國が所謂帝國主義なるものを採用せしは實に近來の事にして且つ自動的に爲せしにはあらず無餘儀被動的に爲したるものなりとすれば我帝國が大陸に向て本主義を實行するの先鋒機關とも見るべき統監府が韓半島に於ける遣口を見るに左顧右眄恰かも我國維新の際急に士族が零落して其娘を苦界に沈めたるときの如く扮裝となれば自家の体面さか世評どかを顧慮し態々自家の娘を他人の籍に入れて身賣を實行したる如く甚だ迂遠にして手取舍紗なき取引を爲し居ることは事實以上の事實なり

帝國主義一名を國民生活區域の擴張主義と云ふ良かれ悪かれ斯主義を採用したる我帝國が已に之を實行するの場合に至て他の思惑や何かを顧慮して逡巡するは決して策の得たるものにあらず余輩は必ずしも彼の英國がトランスヴァルに對して行ひたる遣口を學ぶべしと云ふにはあらざるも之に依て我當局者が帝國主義の如何なる者なるかを知られんことを欲するなり

余輩は我伊藤公が如何に苦慮せらるればとて元來筋を異にしたる帝國主義と人道主義とを結着し得べしとは信ぜず身賣は必要より起る必要の前には何者も叩頭するなり左顧右眄今の時に於て零落士族を學ぶは決して策の得たるものにあらざるなり

人を各保護國及び殖民地に出せ

臺灣の後藤は何の爲に成功したりや曰く他なし彼は知らざるを知らずとして部下の俊才を世界の各保護國及殖民地に派し其政策及制度を調査し長短合せ集めて豊富なる材料を得自家政策建立上の參考となしたるに因る

我統監府も敢て後藤の顰に習わと云ふにはあらざるも宜敷人を世界の各方面に派して韓國統治上の參考ともなるべき材料の蒐集に勉めて可なり未だ一保護國一殖民地をも踏まざるの諸君が假令擧殖に於て當世第一流たるも其鳩首凝議の結果や知るべきのみ臺灣後藤の成功を知りて其成功の源因を究めざるは今の統監府が長袖の譏を免れざる所以なり

路透電報

▲降伏の歸着點　ステッセル其他に對する審問は結局旅順要塞は日本砲兵の優勝なる彼れ以上に永く維持する能はずと云ふに歸着せり（十九日發）

東京電報

▲韓太子の謁見　韓國皇太子は本日伊藤太師岩倉接伴官御同乘にて參内せられ兩陛下に御對顏あり終て御會食ありたり

▲韓太子の各宮訪問　韓太子には本日午後有栖川宮伏見宮東伏見宮閑院宮竹田宮各殿下を御訪問遊ばされ伊藤太師も随行せられたり

▲李大使の視察　韓國特派大使李載覺氏は本日大審院控訴院等を視察し夫より東京砲兵工廠に兵器製造の模様を視察せり

▲李大使の謁見　李特派大使は明日參内し兩陛下に謁見國書を捧呈し終りて御陪食あり（以上十八日午後發）

▲市鐵買收可決　東京市會は昨夜三に對する五十餘の多數を以て市街車買收を可決せり

▲大三輪氏授勳　大三輪長兵衛氏は韓國貿易の功勞により勳四等旭日小綬章を授けられたり

▲大使以下叙勳　韓國特派大使李載覺に旭日桐花大綬章を贈られ永宜君李俊鎔に旭日大綬章を贈られたり

▲陛下の太子御訪問　天皇陛下には韓國皇太子を明日芝離宮に御訪問の爲行幸仰せ出されたり（以上十九日發）

各地電報

▲賊軍浦塲を襲ふ　安養驛に出張したる巡査の一行は軍銃を携帶せる賊徒五名を取り押へたり亦十八日午後三時頃暴徒七十名シスナハト村に侵入し金員を掠奪しつゝある旨村民より軍浦塲驛に報導したるにより水原守備隊に援護兵を求めたり（十九日安泰發）

雜報

●韓太子の電音　一昨十七日午後六時在東京皇太子より大皇帝に宛て左の電音ありしと

兩闕御安泰遊ばさるゝや臣從間無事今日の謁見禮式も能濟たり御安心を願ふ臣垠

●太皇帝の返音　前項韓太子の電音に接したる太皇帝は十八日午後八時左の返電を發せられたり

夜間安眠謁見禮式無事結了すと聞く甚喜幸兩闕泰平父平信

韓國の法院の新設

京縣に設置すべき大審院は既に平理院を以て一時代用すべき筈にて先日來其修理を急きつゝあり其他京城、平壤、大邱に設置すべき控訴院並に各道に設くべき地方法院に於ては昨今地方有志者より場所の變更を出願するものあるを以て當局者にありては出來得るかぎり審査しつゝあれば爾今多少の變更あるやも斗り難しといふ

●永濱總稅務司署理の往訪　昨十九日は我國皇帝陛下の御命名日に相當するを以て永濱總稅務司事務署理は同國領事を往訪し祝意を表したりと云ふ

●宮內府の遣口　宮內當局者の遣口が頗る捌作的にして種々の實効を擧げつゝあることは一般の世評なるが今回新たに日韓瓦斯會社の株二千を引受け同社の成功を助けつゝありと云ふ

●浮浪歸化法制定　內部にては各地方にある浮浪の人民を歸化せしむる方法を規定し各道に訓令する筈なり

植民地金融機關に就て

（於韓國經濟協會由原盛宏氏談）

植民地の經營上、金融機關の完備を以て最大急務の一とすべきは論を待たずして明なり、是れ植民地を有する各文明國が大に其完備の爲めに力を盡しつゝある所以なり、今例を英國に取れば、倫敦に本店を有する植民地銀行は約三十の多きに達し、自治植民地、執帶植民地乃至東洋に於て盛んなる營業をなしつゝあり、一九〇二年に於ける總資本額は三千九百五萬磅、資産總額二億九千六十五萬磅に上り、各植民地に於て二三の支店出張所を見ざるはなく、世界各國に於ける營業所の數併せて實に二千を越ゆといふ、盛なりといふべし

同じく植民地といふも其地理的關係、開發の程度如何等に依り金融機關の組織及業務に多少の差別を要するは無論なり、例へば未墾の地と半開の國、農業、鑛業又は商業の發達如何に依りて各々之に相當する機關を要するが如し、而して過去百年間に於ける歐洲各國の經驗に徵するに、殖民地金融機關の組織及び營業上自ら三種の別あるを認む、即ち其一は英國式にして專ら商業機關としての目的に重を置き、其二佛國式は主に農業を奬勵し農業の機關たる傾あり、其三獨逸式は更に之に止まらずして或は鑛業、鐵道、港灣等の經營にまで着手せんとする傾向を見る

英國式殖民地銀行の實例としては、彼の香港上海銀行の如き其最も著しきもの〻一たり、同行は一八六六年の設立に係り、資本金五百萬弗、特權としては拂込濟資本額を限度とする紙幣發行權を有す、但し發行高に對し三分の一正貨準備を置かざる可からず、同行は不動産貸附を爲すを得ず、又自ら商業を營むを禁ぜらる、其他彼の印度國民銀行及びチャーター ド銀行の如きも亦略々類を同じくし、正貨、商品及び手形に對し貸出しを得れども不動産に對する貸付は禁止せられ居れり

埃及に於ては一八九九年埃及國民銀行より試驗的に地區を限りて農民に對する貸付を開始し、次年よりは其區域を十地方に擴張したる結果、貸出口數約九千五百、此金額十三万七千餘磅に上れり、其利率は年一割にして內一分を地方出張店の手數料に充て殘り九分を以て雜費、利金、損失塡補に充つることとしたるが、一九〇一年に至り、國民〻地銀行を起し、一九〇四年には貸出總額一百万磅以上に達せしが、其利率は九分にして、從來農民に取りて非常の桎梏たりし高利貸の手より之を救濟し、頗る好成績を擧げたり、又濠洲に於ては多年の經驗、特に一八九三年の辛烈なる經驗に依り、各銀行は主として商業的の機關となり土地、家屋、船舶に對して貸出すことを嚴禁するに至れり

佛國の植民地銀行は一八四八年黑奴解放の結果、非常に困窮せる農業者を救濟する目的を以て、一八五二年に設立したるマルチニク、ガドループ、レユニオン等の各銀行を始めとし、亞非利加及び東洋に於て營業する各銀行に至るまで、主として農業の振興を眼目とせるが如し、之が爲め土地及び既收作物に對して貸付を爲せるは勿論、甚しきは未收作物に對してさへ貸出を爲すものありて、其結果非常の危險を生ずるに至れり、此に於て政府は一九〇一年の法律に依り、植民省內に九人より成れる植民銀行監督委員を置き、以て綿密なる監督を施すこととなりたり

佛國植民地銀行中にて最も興味ある實例はアルゼリー銀行なり、同行は一八五一年の創立にして、最初は二十ヶ年の存續期限なりしが、其後數度更改して、今は一九二〇年まで其存續を認許せられ、資本金も漸次累加して、二千萬法となれり、同行の營業科目は割引、紙幣發行及び農業貸附にして農業者に對する貸附は直接又は地方代理店を經、無擔保貸附をなすものとす、是れ土地擔保の貸付は土地及農業銀行の業務に屬するを以てなり、同行の利率は年五朱なり其如何に農業の興振に大功ありしやは、一八八〇年の葡萄園面積一萬七千ヘクターに過ぎざりしもの、一八八六年には八万ヘクター、一九〇二年には十六萬ヘクターとなり、一時大に農業の發展を現はせるを以て之を知るべし、然かも葡萄園の騰は豫期の如くに速に擧がるを得ず、農業者の無擔保證券に對する貸付は規定の九十日間毎に延期又延期を重ねて、無期限の貸付同樣となり、銀行の困難日に甚しく、遂に損失を免れん爲め債務者の土地を引取るの已むを得ざるに至り、其價八百萬法の巨額に達し又一八九二年には延滯貸付二千二萬法に及べり、事態右の如くなりしを以て銀行の株式は一時の高價に比し四分一に落込みたれば、果して銀行の存續を許すべきや否やに就て世上囂々の聲を聞くに至れり、一九〇〇年に至りて同行の整理漸く成り、更に二十ヶ年の存立を許され、紙幣發行に對しては嚴重の制限を加ふることとなり、銀行の營業は漸く危險の域を脫するを得たり（未完）

釜山海陸連絡工事

釜山稅關の擴張を企劃して釜山港海陸聯絡の設備を完備するは刻下の急務にして同工事は既に稅關工事部に於て着々實施進行中なるが同工事は京釜鐵道驛と密接に關聯せるを以て其の第一着手として稅關用地埋築工事は昨年六月を以て起工し來る十一月二十日を以て其の第一期埋立工事及防波突堤の一部工事を完成し引續き突堤工事物揚場護岸石垣工事及艀船溜築造等の工事は直營又は請負工として着々進行中にあり今回竣功せる第一期埋立と稱するは其面積四千九百有餘坪に過ぎざるも其の水深は滿潮面下二十七八尺に達し殊に海底の地質頗る軟弱を極め爲めに工事實施上多大の困難を感じたるも日夜勵精工事の進捗を謀りたる結果として其の豫定期限內にありて最も完全に其竣工を告げ目下引續き實施中なる突堤工事物揚場護岸石垣工事艀船溜築造工事を完成し猶又實施計畫中の棧橋の築造起重機の設備諸廳舍倉庫上屋の建設を完備して釜山埠頭本船を横付として岸頭には起重機動き汽車走り旅客貨物の集散益々頻繁を極むる期は今後一兩年間にありと

屯驛稅提供の說

宮內府の所管に係る屯土稅及び驛稅は今回創立されたる東洋拓殖協會に提供すべしと而して同協會に於ては之を徵收したる後其稅金として收益の幾分を宮內府に納入すべしとの說あり

暴徒稍や衰ふ

本年九月以來地方各所に於て跋扈跳梁を逞ふしたる暴徒は我討伐の打擊を蒙むると彼等が糧食に欠乏を告たるとにより近頃に至り稍衰退の傾きありと然し彼等暴徒は未だ六千餘の勢力を有し銃器も可なりに供給の道を講じ居る模樣なれば全然衰滅の域にありとは云ふべからざるなり

頑冥なる暴徒の檄文

全羅北道金堤郡公洞面の民家に暴徒檄文を配付せり其要左の如し

現今日本人の行動慢悔にして侵掠限りなし我等此際兵を起して一擧彼等を殺害せんとす愛國の志士は一心會同掃滅に加擔せらるべし尚日本人と米穀貿賣を爲すものは軍法によりて斬首し日本人と接近して居住する者は速に他に移轉して災を免かるべし云々

憲兵遭難詳報

十二月十三日忠淸南道連山を出發せる珍山（全北）間の交通憲兵三名は交通點連山郡岩洞に達する前二千米突の地點に於て暴徒の狙擊を受け一名行衛不明一名重傷を受けたる旨同日午後七時急報珍山邑に達せしに以て憲兵及巡査は該地點に急行調査せしに連山發の憲兵三名は縱隊を以て行進中堤防下水車小屋の中より二發の狙擊を受け第一列の山崎上等兵戰死を遂げ第三列の阪本上等兵重傷を負ふ賊は狙擊後直に逃走せしもの〻認められ附近に其踪跡なし山崎の死体は連山に送致し負傷者は應急手當をなし太田守備隊病院にて治療中なり同人は背部及上膊部に數個の散彈盲管創を受け今後發熱を起さゞれは生命には別條なかるべしと

厚峙嶺の首魁

過般厚峙嶺の戰において……員を指揮號令し奮闘遂に……首魁は安坪社嚴防洞居住……する者にして由來此地方……する獵夫の組合ありて彼れ……されたる者にて今回義兵を……軍の指揮を執りし者なり尙……に於て燒失したる家屋は總……五戸は鉄眼を穿ち防禦工事……を以て討伐隊に於て之を燒……難の際火を失し燒棄したるも……

北靑郡の秩序恢復

咸鏡南道北靑郡安坪、安山の……平穩に歸し四散の人民漸次復……變戰地たる厚峙嶺、新店里を……平常に復したり今日の場合に於……出張最も必要なりと認むるを以……安坪社に於て兩社人民を招集し……あり宮部中隊長並に分派所長も……をなし將來を戒告したり

●宣川附近の平穩　平安北……近は一時暴徒騷動の風說ありしも右は單に風說のみに過ぎずして至つて平穩なりと云ふ因に同地には邦人十六七名居住せりと

●暴徒の自首　揚根郡揚根分遣所の報告に依れば去る十五日暴徒の自首したるもの左の如くなるが同所にては嚴戒放免の上目下監視中なりといふ

揚根郡東終面金東用、同郡在李昌鎭、同嵌金石、同咸所爲、同郡片前里申德山

憲兵將校敍任辭令

天安分隊附を免し京城分隊附（本部在勤）を命ず　憲兵中尉　村井　國憲

京城分隊附（汶山分遣所）を免じ天安分隊（鎭川分遣所）附を命ず　憲兵少尉　松下　和巌

天安分隊附（全州分遣所）を免じ京城分隊附を命ず　憲兵少尉　村田　多忠

天安分隊附（全州分遣所）を命ず　憲兵大尉　渡邊　信三

釜山分隊長を命ず　憲兵大尉　大原　亮

右本部附を命す　一等軍醫　口分田文雄　三等軍醫　猪子光太郎

天安憲兵分隊附を命す　三等軍醫　山田　三男

●水島主計　は昨日仁川民役所を訪問す

●仁川電話主任の來任　仁川局電話係主任村上技手は昨日京城より來任せり

●富田仁川民長の禮狀　仁川大火に際し熊谷民長より見舞の電報を發したることは既報の如くなるが右に付富田仁川民長より昨日禮狀を寄せ來れり

●宮殿伺候者　一昨日の昌德宮伺候者は法相趙重應、中樞院贊李謙濟を重なる者として男四十名女十五名、德壽宮には閔盛趙秉銓、同承英澤其他侍從等を重なるものとして男十六名女三十一名なりしと

●高等女學校に就て　高等女學校設立のことは過日の協議會に於て設立する……

●仁川の……の經費を以て……るが昨今何々夜……現はれ其費用徵收を……民團評營の夜警と別……すべしとなり

●火賊引渡　去る十六日附……遣所よりの報告に依れば十四日……遣所員の逮捕せる火賊崔鳳採は十六日午後四時一件書類と共に警務分遣所に引渡せりといふ

釜山特信（十八日發）

編輯局各位、寒氣日に增し加はり當地は一昨日來水源地の深水結氷して昨日の如きは一滴の給水をも得ず市民は大に閉口いたし居候乍併當局者に於て應急工事を爲しつ〻あれば今明日中には給水せらるべきかと存じ居り候

民團役所にて調査せし十一月末現在の當市居留民は男一萬三百六十三人女七千九百八十二人と算せられ候當民團にては曩に金七萬圓の起債案を提出し第一第十八第五十八の三銀行支店より借入ることに決し遊廓の移轉、新市街道路の改修等に充つることゝなりしが今回の民會に於て更らに明治四十年度より四十一年度に亙る繼續案として四万三千圓を本年內に土地買收費に支出し殘り二萬七千圓を工事費として民團事業を進行することに決議いたし候

飯田警察署長は一昨日署員を集めて一場の訓示を爲したる由に承はり其の一節に憲兵の獨身にして此の地に在る者は速かに家族を招致して團欒的家庭を作るべし是れ一に自己の爲めのみならず信用にも大關係を有すべし云々と警察官に非難の多き今日洵に適切なる訓告と存じ候

歲末多忙中餘は後便に讓るべく候敬具

暴徒官衙を襲ふ　十二月十四日午前〇時頃約五十名の暴徒實然茂朱郡邑に襲來し郡主事、郡首書記、稅務主事及び巡檢等の家宅に侵入し郡首書記の宅に於て官品を掠奪し猶邑民よりも若干の財物を奪ひ茂朱城及び富東面方面に分れて退却せり

軍糧を押收す　……西村面及び其の附近に集團し居たる暴徒は既に解散したるもの〻如きも遺留品として糙十六石を除城郡法旺面新中梁里金楨桐の居宅內に藏匿しあるを發見し軍隊は之れを……

●車輦館驛の投書　京義線車輦館驛の郵便函內に左の如き投書ありたる由

……るものは文集と稱する連名簿を保へ居る由

石炭輸入概況

（京城日本人商業會議所調査）

△石炭の需用高　當京城に於ける石炭の需用に付ては毎年十一月より翌年四月迄にして其間最も多く需用せられ尚は夏期に於て煉化燒成の爲め用ゐらるゝものなるにより殆ど一年を通じて常に輸入せり從來電燈會社を始め其他精米業等重なる需用者なりしが近來我邦人の増加に伴ひ家屋の建築改造と共に年々其需用額を増加し亦一面諸官衙の續設は以て石炭の需用額をして一層劇増せしめ昨卅九年度に於ては僅々一萬二千噸内外の輸入あるに過ぎざりしが本年に於ては既に電燈會社の五千噸を始め合計一万噸以上の注文契約を見るに至れり此勢を以てすれば本年度に於ける需用高を想像する時は少くも二萬噸を下らざるべし

△輸入先及價格　當地需用の石炭は筑豐炭を始めとして唐津炭及び肥前炭是れに次ぐ而して値段に付ては大略左の如し

普通炭　十三圓五十錢より十四圓に至る
粉炭　十二圓五十錢より十三圓に至る
塊炭　特別一等　十七圓

然れども目下漢江結氷の爲め仁川龍山間の水運杜絶し相場は幾分強氣を示し居れり

▲滊車便と水運の利害　當京城に石炭を輸入するに付ては水運に比し滊車便の不利なるは何人も認むる處なり而して鐵道には未だ石炭の如き一時に多數なる物取扱の設備なし故に千噸の石炭を仁川より輸送せんとすれば少くも二ヶ月の日子を要し且つ貯炭の場所等更になく直に一定の貯炭所に輸送せざる可らず是れ商人の困難を感ずる所なり一方水運による時は運賃の廉なるは勿論龍山に陸上をなし地料の低廉なる河口附近に貯炭をなし賣買の都度一時に京城の需用者に直送する時は運賃の廉にして手數の少き事到底鐵道輸送の比にあらず今玆に鐵道輸送と水運との運賃比較を上ぐれば

一水運による時は直に本船より小舟に移すを以て一噸に付き仁川より龍山迄運賃僅かに一圓内外に過ぎず

一滊車便による時は一噸に付本船より小舟陸上積込費とも八十錢滊車賃一圓五十錢荷卸し方付共三十錢合計二圓五六十錢を要す

▲目下の商況　目下寒氣頓に加はりたる爲め需用多く隨つて賣行最も盛にして當業者は何れも多忙を極め居れり

▲將來の見込　我邦人の劇増と共に幾多の事業は企圖せられ家屋の建築或は改築等年々増加し亦一面諸官衙擴張の結果大に需用額を増加せり今後韓國の啓發に隨ひ益々有望なりと信ず

仁川より（十八日發）

▲民團長不信任案　前十七日午後臨時居留民會を開催し前號に掲ぐる小倉議長も出席して現在議員十名揃ひとなり先づ徴税規則追加の件を可決し次に再議に附せられたる指定學校申請の件を滿場一致を以て可決し將さに閉會を告げんとするに際し增田議員より緊急動議ありとて何事か記されたる紙片を議長席に提出せり小倉議長はこれを見るや秘密會に於て協議すべしと宣告し是れより傍聽者を却けたれば如何なる事件なりしかは知る由なきも該山民團長不信任案なることは想像に難からざる所なり其の如何に決議されしかは後便に報道すべし

▲民會議員運動　民會議員五名缺員あるを以て不日これが撰擧を行ふべきにつきては野心家は密々運動に着手せり何れ花々しき競爭を見ることとなるべし

●土地交換立會　仁川宮田民長は昨日鐵道敷地交換に關し管理局側の海津中佐及地主等と實地立會をなせり

●鹿兒島縣人懇親會　在京城鹿兒島縣人は來二十一日本町六丁目花屋に於て懇親會を催す筈にて會費は金二圓なりと

●年賀郵便物差出を遅る勿れ　追々年末に差迫りたるが例年は既に年賀の郵便物の差出多きに本年は未た一通も無之次第なるが仁川局にては郵便物は元旦早朝配達すべきものなれば如何に年内なりとも一日も早く差出す方得策なりといひ居れり

咄々怪事

仁川港の滊仲仕四名は昨日仁川警察署の拘引令狀に依り同警察署に拘禁せられたり而して其人名は長崎縣長崎市平民仲仕組支配人國近新藏（五十）廣島縣平民同組小頭米田松太郎（三十）大分縣平民同組小頭大平友一（三十七）山口縣平民同組小頭淺見金藏（六十）の四名なり之が原因は去三十八年三月二十三日同四月六日同八月八日同八月十日其外數回貨主より托されし物を誤魔化し又は窃取し費消したるものなり委細は次號に詳報すべし

壹萬圓を騙らんとす

圖太い韓人

昨日第一銀行京城支店に一人の韓人入り來り當座小切手に壹萬圓と書し仕拂係に差出したれば仕拂係は之を現金係に交付したり現金係小林氏は之を熟視し韓人として壹萬圓の預金を引出すとは實に胡亂千萬なりと怪み預金帳を取調べしに豈に圖らんや百五十圓の預金ありしのみなりしかば直ちに右韓人を引捕へ取調べしに此韓人は金といふものにて唯百五十圓預け入れあるのみなりしが同人は同日右百五十圓の内より百圓を引出さんと小切手に一百圓と記入する所を途中にて一萬圓と記入し右の如く騙取せんとしたる次第なりしかば直ちに警察署に引渡されたり

裴夫人の末路

宮中のお覺へ目出度漢城の天地に飛翔し其羽搦り中々に勇ましく滿都の士女をして眼を發てしめしは誰れあらう玄暎運の妻裴夫人なり素情を洗へば釜山邊にて桂香と名乘りし妓生なりし裴夫人が桂香とて浮川竹の流れに伏し沈みし際のことならん日本の松尾某に思はれ天にありては比翼の鳥地にありては連理の枝と契り遂には文明の花は芳野の櫻の如く爛熳と咲き綻びし日本の帝都東京にまで伴はれ何不自由もなく語學を學び去る丙申の年日韓の交際は益々敦睦を加へ日本語を操らねば交際場裡に立つことも能はずといふ時日本留學女子撰擇の爲め歸國したり此時裴貞子は思へらく女として夫なきは便ならずと當時留學生たりし玄暎運と契りを結び父母の許も受けず玆に自由結婚的夫婦となり伊藤公の養女なぞと稱して宮中に出入し又伊藤公の邸に出入するなどして宮中の寵を得裴夫人として飛ぶ鳥をも落さん勢ひ仲々勇々しかりし之れが爲め夫の玄は一足飛びに參將軍部次官となり漸く漢城の勢道たらんとせしに世は變轉極りなく左しもに勢ひありし玄門は一朝政界に勢を墜し門落雀羅を張るの有樣となりしかば夫妻の間も自然睦しからずなり家内は風波の絶ふる際とてはなかりしに遂に秋扇の嘆を殘して夫婦別れせしは既に數月前なりしが裴貞子は其後又々松尾某方に至り身を寄せ味氣なき浮世を喞ちながら好き鸞殿をと内々探しつゝありしが其望みに應ひしは耶蘇教徒中に文明男子を以て自ら許す某にて共に天長地久世界のあらん限りは變らじと天を指し地に誓ひ目出度夫婦の契を結び不日耶蘇教式の婚禮を擧ぐる由なり

無情强慾（十）

久米八はこの證書の案文を確乎と見つめてありしが如何に惚れ入ましとはいへ金に積れば幾百圓となる證書にオイ夫れと調印はせず此の證書だけは御免を蒙ると跳ねつけたるよりクモは忽ち般若の相をなして然らばお前は私の姪を半歳も無給金で使つた上に子が出來て居つても取合はないとの考か开んなことで世の中が渡れるなら樂なものだが天下の法度が許さぬお前のやうな理非の分らぬ者を相手に話をした所が埒のあくことでない私の言分に無理があるか警察へ行つて聞いて貰はふサア此れ前もた出でミヨも來いと三人打ち連れて警察署に出頭しクモは得意の能辯でべらべらと饒舌立てたるが歸する所はミヨを種にして久米八より若干かの金を貪り又此の後はミヨを引き取つて己が喰物にせんとの下心は言はずとも夫れと知れ姙娠々々といへる口實に過ぎざればクモは理つて說諭せられしが果して姙娠なりや否やは他人の知る所にあらざるを以て更らに其の確定するを俟つて熟議すべしと諭され又ミヨは如何に進退すべきかと尋ねられて伯母に恩借金のあることなれば其の命は拒みかたし去とて今の夫たる久米八は抱きも抱かれもせぬ仲なれば喜んで別れる譯でもなしといへるより既に一旦嫁して夫婦睦じく暮らすことなれば無理に離縁せしむるにも及ぶまじとの說諭ありしもクモは大工風情の者に姪を嫁にして置きては自分の顏にかゝると頑張つて承知せず其のまゝ引き退がりしがミヨは更らに某醫師の診斷を受け受姙し居らざること判明し去る十七日遂に伯母クモの宅に引き取られ入嫁中の給料につきてもクモは是非取らねばならぬと言ひ居る由なるが世間に無情の者ありといへどもクモの如く我肉親の姪を僅かの金の爲めに苦しむる底の者は稀なるべし世間に强慾の者ありといへども斯くまで執拗く付け入りて人を苦むる者は稀なるべしアナ怖ろしき强慾なる哉（をはり）

●油斷のならぬ白鼠　奈良縣生駒郡北部山村の生れにて福貴三郎といへるは當地南山町一丁目海島三吉方に雇はれ假面を被りて忠實に見せかけ漸々に信用を得て會計事務を任されたりしより爰に本性を現はし本年九月より十月五日までの間に今家より人夫賃大工賃等を支拂ふ金額に百十七圓九十錢を增づけしてこれを費消し又十月二十日に大韓天一銀行當座預金引出小切手に三吉の印を押捺しこれに五百圓と記入して二十三日に同行にて五百圓を詐取したること發覺し其の筋へ引致せられ目下取調中なりと

●豚を殺して告訴せらる　南大門外に棲む某の飼育せる豚一疋が去る十日の夜紛失せしより窃かに探索し居れる所其の死骸は鐵道管理局の上の山に於て發見し管理局の屋夫等が撲殺したること分明したるより昨日被害者より告訴せしといふ

●手長下女の遁走　兵庫縣生れの廣瀬トヨ（三十）は本年九月より當地新町の井門支店に下女奉公を爲したるが昨日正午頃影を隱したるより種々詮議せし處同居人外村ヒサの東コート（十三圓）及び朱珍の女物丸帶（十八圓）を窃取しこれを韓人に托して入質し金八圓を借り其の金を携へて失踪したること判明したりと圖太い女といふべし

●いよいよ赤い着物　主家の毛布と肩掛を盜んで毛布を情夫に貸與したる當地米倉町一丁目松林マサ方の酌婦遊池イトは重禁錮二ヶ月監視六ヶ月に▲當地永樂町三丁目水川友一方にて無錢遊興を爲し且つ器物を毀棄したる廣島縣生れの中野末吉は既に前科もあることとて重禁錮八ヶ月罰金十圓監視六ヶ月に何れも一昨日處刑せられたり

●菊石病　佐賀縣の者にて當地伊東組に人力車夫を爲し居る橋本佐太郎は天然痘にかゝり南坡岡院に入院治療中なり

●四十一年度日記類　例年の通り東京博文館より洋裝美麗なる當用日記及懷中日記英文當用日記及懷中日記、外に今回新しく出來せし家庭日記、實業の日本社より重要日記及春陽堂より文士連の考案による新案當用日記數萬部當地本町三丁目日韓書房に着荷せしよし尤て既に發賣しつゝあり

廣告

廣告
小生儀病氣全快致候に付平常の通執務仕候
事務所　京城旭町二丁目（理事廳横）
大邱北門外
辯護士　藤井太郎

懇切と熱心を以て訴訟其他諸般の代書依賴に應ず
明治法律學校出身
增本好三郎事務所
京城本町二丁目一番地

京義線旅客列車一部休止
本月二十日より當分の内京義線左記列車は旅客及手小荷物の取扱を休止致し候
南大門發　午後七時十分　開城行
開城發　午後六時廿分　京城行
明治四十年十二月
統監府鐵道管理局運輸部

茨城縣人諸君に告ぐ
今般小宮內次官の歡迎を兼ね忘年會相催し同縣人間の交誼を溫め度候に付歲暮御多用の折柄ながら何卒御來會被成下度希望仕候
一、時日　十二月廿二日（第四日曜）午後正三時開會
一、會場　日本人俱樂部　會費金三圓
御來會御申込は發起人へ願候
發起人　谷口小次郎　飯泉幹太
旭町二丁目一番地　小杉謙八

韓京に在留する大阪人士及大阪に縁故ある人士に檄す
大阪と韓國とは古來より密接の關係を有したるを以て當韓京に大阪人士及地方人にして大阪に深き縁故を有する仁多數在留せらるゝも今日まで一回の懇親會的會合ありしなき爲め同郷人にして同郷人を知らざる事多く甚だ遺憾に堪へず殊に昨今の如く大阪人士の來韓益々多きを見るに到りたれば此際忘年會を兼ね親睦會を開催し同志と謀て來る二十一日午後五時より花月樓に於て有志親睦會開催可致候間大阪人士は勿論大阪に縁故を有せらるゝ諸彥は年內多忙の折に候へ共萬障御繰合せの上奮て御出席被成下度奉懇願候
會費金參圓御賛成の方は左の發起人中の內へ二十日迄に隨意御申込被成下度候尙御賛成の諸彥より本會開催の事不知の諸彥に御勸誘御出席被成下度願上候
發起人（いろは順）
池田長兵衛　辻本嘉三郎　中村政次郎
野々村藤助　小北米藏　兒玉善次郎
木島小兵衛　三田政次郎　三好和三郎
鈴木義三郎

本店　東京市日本橋區兜町
內地支店及出張所　大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
韓國支店及出張所　仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、大邱、開城、城津、成興、馬山、平壤
淸國出張所　安東縣
株式會社　第一銀行京城支店
電話番號　營業部 一一番　國庫部 六一一番
當座用 同 一二番　用度係 六二一番
營業部 三三一番　分析所 六二二番
總支配人　市原盛宏
副支配人國庫部長　竹山太郎
副支配人調査部長　三島純平
副支配人營業部長　市村雄次

材木薪炭商並ニ鐵道貨物取扱運送業
韓國京義線新幕停車場前
（モ）田村保吉
電信略號（マルキ）

諸官衙御用品調達
營業科目
紙類書籍　印刷附屬品　印刷インキ　防腐デシン　穀物食鹽　織物染料
各學校用品調達
幷に委託販賣
東京　合資會社アライアンス商會代理店
橫濱　百七十六番　ビユームエンドライフ商會代理店
東京　千代田生命保險相互會社代理店
東京　博文館發行書籍特約店
東京　金港堂發行書籍特約店
釜山　臺灣鹽合資會社食鹽特約店
藤田合名會社
本社　京城明治町二丁目　電話三一二番
支店　仁川濱町二丁目　電話五一五番
出張所　東京京橋區南鍋町　電話新橋二九六二番

ちん餅搗
迅速安價に御用命に可應候間多少に不拘御注文願上候
追て出搗も可仕候
京城南大門外一丁目新道
七福軒
電話一二九番

店員入用　但十三歲以上十八歲迄
京城本町一丁目
秋山商店

貸席待合
ま乃花
南山町一丁目（植村病院前）
客室は清潔にして叮嚀なるは本店の特色に御座候

歳暮大賣し福引券進呈廣告
例年の通り
●歳暮御進物用品荷揃●
景品總額一千圓也（內譯）
一等景品　金壹百圓　辻屋商品切手
二等景品　金七十五圓　婦人眞珠入
三等景品　金六十圓　指環用金鎖
四等景品　金四十圓　毛布
五等景品　金卅五圓　大形トランク
六等景品　金卅五圓　シャンパン酒一打
七等景品　金二十五圓　白毛布
八等景品　金二十圓　旅行鞄
九等景品　金十八圓　銀張トランク
十等景品　金十五圓　カバン
十一等景品　金十圓　三越商品切手
十二等景品　金十圓　辻屋商品切手
以下五百六十圓品名省略す以下一本も空籤なし
●景品券進呈期間十二月五日より同三十一日迄
●抽籤日四十一年一月十日本町座に於て公會す
●景品券は金三圓御買上毎に一枚進呈可仕候
歐米雜貨洋酒食料品　洋服　洋菓子類　直輸入商
京城本町二、三丁目
辻屋本支店
電話二四八番　電話三六六番

歳暮御進物品荷着

●美術刺繍屏風種々
●洋室用壁掛、卓掛、寢臺掛
●極上豹皮及諸毛皮類
●毛首卷、ショール類
●防寒シャツ類種々

其他御進物用品種々荷着精々廉價販賣仕候

京城本町

歐米雜貨
美術品

四ヶ所洋物店

電話三一二一

歳暮 年玉

御進物用品新荷着

販賣品目

西洋酒
西洋食料品
葉卷紙卷煙草
西洋菓子各種

京城本町一丁目角

青木堂

電話四百十番

(あ) そへもの

歳暮大賣出し

綿類。蒲團。
太物。洋反。
並にメリヤス類

右本月拾八日より三十一日まで歳暮大賣出し仕り添物進呈可仕候

京城本町一丁目

(あ)

秋山商店

開店廣告

神佛葬具請負 並ニ佛具販賣

御一報次第直ちに參上仕諸事御引請御調達可申候

京城旭町三丁目(十全病院隣)

左文字屋

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 七拾貳萬圓

京城南大門通(電話四二〇)

株式會社 十八銀行 京城支店

本店 長崎市築町

支店出張所
韓國 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、群山、馬山
日本 大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候(利息日歩壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店(十八銀行京城支店)

當十二月十五日より

(丸一) 歳暮賣出し

更紗八錢より○子ル同じく○唐チリ友ぜん廿錢より○其他之に準ずるの大安賣○和洋反物共新荷澤山此際品々御好にまかせ○平素懇直なく薄利を旨とするの弊店實は割引の餘地とては無之も從來の御愛顧に御禮の爲め如此に候

京城本町三丁目

丸一 和洋反物店

電話六三五番

歳暮大賣出し

正札より一割引

新年勅題意匠半襟
御祝儀用白襟各種
新柄各種品揃
帶じめ
帶あげ
御羽織紐
御袖地

今般京都本店より最新流行品澤山荷着仕候に付十二月十五日より同三十一日まで景品として正札より一割引にて歳暮大賣出し致候間多少に不拘御買求めの程偏に奉希上候 敬白

御進物用商品切手

京城明治町一丁目

(丸星)徳 京城支店

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣

株式會社 第五十八銀行 京城支店

(電話五八番)

爲替取組先

內地 二十七ヶ所
東山道 十二ヶ所
山陽道 七ヶ所
南海道 二十五ヶ所
北海道 十三ヶ所
臺灣 二ヶ所
東海道 二十八ヶ所
北陸道 十三ヶ所
山陰道 三ヶ所
西海道 三十三ヶ所
韓國 九ヶ所
清國 一ヶ所

營業科目

活版活字鑄造
石版銅版
コロタイプ
彫刻諸印刷
諸帳簿
製本裝釘

本社 京城西署西小門內(電話三二三番)
仁川出張所 仁川海岸埋築地(電話仁川二五五番)
東京出張所 東京市京橋區南鍋町二丁目十番地(電話新橋三九六二番)

日韓圖書印刷株式會社

特別廉價確實販賣

木炭
石炭卸小商
コークス
ガラ炭賣

京城永樂町二丁目赤門通り

中山碁商店

本月十五日より

●下駄
●足袋
●麻裏

福引 景品付大賣出

龍山旭橋通り

履物店

薩摩屋

電話百五十四番

福引券進呈

(太) 歳暮大賣出し

○一等景品 金 露五樽
○二等景品 トランクカバン 一個 四十圓
○三等景品 三越呉服券 二十圓
○四等景品 ライトシャツ 三組
○五等景品 キット皮靴 一足
○六等景品 婦人用絹張洋傘 一本
○七等景品 商人外套 一着
○八等景品 舶來手風琴 一個
○九等景品 上等折カバン 一個
○十等景品 机 一脚
○三十等景品 男持洋傘 一本
○五十等景品 中折帽子 一個
○百等景品 大手提金庫 一個

以下略之

外に副景品として弊店電話番號に當籤の御方には二枚續き白毛布一枚進呈仕候

●例年之通り來る十五日より三十日迄
●金壹圓毎に福引券一葉御進呈可仕候
●今回は特に大強勉一本も空籤無之候
●籤引一月九日新聞社員立會の上擧行

京城本町三丁目(電話百十五番)

(太) 和洋雜貨商

平田商店

統監府
各官衙御用
荷物荷造及運搬

本店 營業部 明治町
本町三丁目

伊藤組

伊藤友松

(電話七百三十二番)
(電話四十十番)

廣告

明治四十一年一月一日午後一時新年祝賀の爲日本人倶樂部に於て名刺交換會開催候間御賛成の諸君は來る二十二日迄に民團役所へ御申込相成度候也 追て會費金五十錢御申込の際添付相成度候

明治四十年十二月十四日

發起人(イロハ順)
伊東祐悅 市原壹宏
池田十三郎 戶叶薫雄
大屋權平 大和與謙
和田常市 吉松憲郎
中丸重二郎 熊谷賴太郎
丸山重俊 秋吉富大郎
佐竹義準 三浦彌五郎
峯岸繁太郎

會席御料理

並に仕出し大勉強仕候

京城本町

蝶

電話六三〇番

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 郡回漕店 電話三十

京城南大門通 巴商會 電話三〇六番

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 十二月二十六日後三時出
●釜山門司神戶大阪行 淡路丸 十二月二十九日後三時
●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 浦汐丸 十二月卅日後三時出
第一オハヨ號 十二月廿一日後三時出
●大連、大沽行 酒田丸 月 日後一時出
●大連行 營口丸 十二月 日後三時出
●大連、秦皇島行 高砂丸 十二月三十一日後一時出
●鎭南浦安東縣行 山東丸 一月十四日 前九時出
第一オハヨ號 十二月 日後三時出
浦汐丸 十二月 日後三時出
●釜山出帆、元山行 弘前丸 一月二日

御注意 御乘船の際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送迎可申候送迎船ハ出帆時刻の約五十分前ニ稅關波止場ヲ出發仕候

大阪商船株式會社 仁川出帆廣告

切符發賣所
仁川支店 電話一二番
仁川稅關波止場出張所 電話二〇番
京城本町通ヲ角發賣所 電話五一五番
荷客扱店 慶田組 電話四二番

●大連、門司、橫濱行 勝山丸 十二月 日正午出
●關門、宇品、神戶、大阪行 馬山丸 十二月 日前十時出
咸鏡丸 十二月廿二日前十時出
●群山、木浦、釜山、關門、神戶、大阪行 群山丸 十二月 日後五時出
京城丸 十二月 日後五時出
●群山、木浦、馬山、釜山、關門、神戶、大阪行 千賀丸 十二月 日後五時出
筑後川丸 十二月廿三日後五時出
●鎭南浦行 咸鏡丸 十二月 後一時出
●木浦、釜山、鎭海、郷之浦、長崎行 木曾川丸 十二月廿五日前十時
●長崎行 信濃川丸 十二月廿三日前十時出
●鎭南浦、大連行 信濃川丸 十二月 日後一時出
木曾川丸 十二月 日後一時出